感情によって伝わりやすい文末表現は異なるのか
～ポライトネス理論の視点から見る～

福井県立武生高等学校

SNSの普及に伴う弊害→伝えたい感情が正しく伝わらない

★伝わりやすい表現方法を調べる→感情と文末表現に着目

文末表現：敬語、句点、絵文字

感情：喜び、悲しみ、怒り、恐れ、感謝、謝罪

プルチックの感情の輪

→感情を色相環のように分類したもの

対になっている感情を二組ずつ調べる

（感謝と謝罪はよく齟齬が起こる感情として調べる）

ポライトネス理論（1987年にアメリカの言語学者ブラウンと、レビンソン博士が提唱した理論）

ポライトネス：会話相手との関係を良好に保つための配慮

▷ポジティブ・ポライトネス（Pポライトネスとする）

ポジティブ・フェイスを確保しようとする言語行為

▷ネガティブ・ポライトネス（Nポライトネスとする）

ネガティブ・フェイスを確保しようとする言語行為

フェイス：人と人とのかかわり合いに関する欲求

▷ポジティブ・フェイス（Pフェイスとする）

他人と関わりたいと思うこと

▷ネガティブ・フェイス（Nフェイスとする）

他人と関わりたくないと思うこと

先行研究より

絵文字→Pポライトネス　敬語→Nポライトネス　句点は不明

※日本語でもポライトネス理論は成り立つとされている

問い：感情によって伝わりやすい文末表現は異なるか

仮説：感情によって伝わりやすい文末表現は異なる

ポライトネス理論により考えられる各感情のフェイス

※相手は友達とする

喜び　Pフェイス　悲しみ　Pフェイス

怒り　Nフェイス　恐れ　Pフェイス

感謝　Pフェイス　謝罪　Nフェイス

フェイスを元に考えられる伝わりやすい感情

喜び　絵文字　悲しみ　絵文字

怒り　敬語　恐れ　絵文字

感謝　絵文字　謝罪　敬語

先行研究によると絵文字は感情をより伝達しやすいとされる

→このように感情により伝わりやすい表現はことなると考える

調査方法→アンケート調査

対象：武生高校生（1～3年生）媒体：Google Forms

6つの感情ごとのLINE形式で場面を設定（相手は友達）

文末表現を変えた文章を伝わりやすい順に選択

※基準とするため常体も入れて調べる

集計方法

一人ひとりの結果に対して、

・一番目に感情が伝わる表現・・・4点

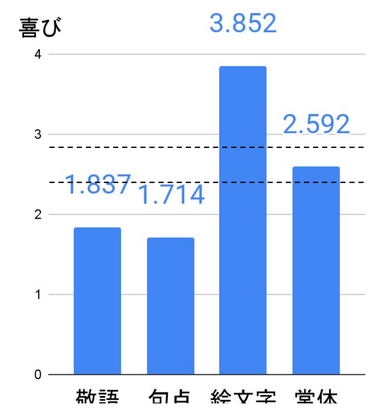
・二番目に感情が伝わる表現・・・3点

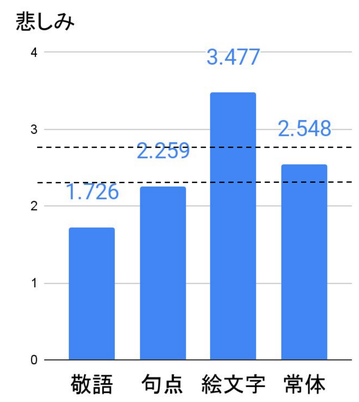
・三番目に感情が伝わる表現・・・2点

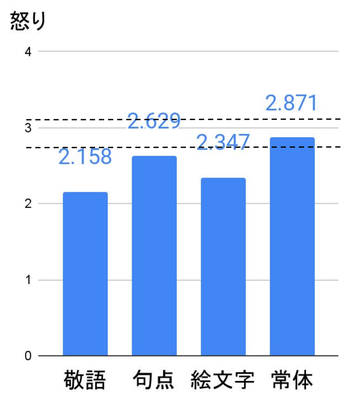
・四番目に感情が伝わる表現・・・1点

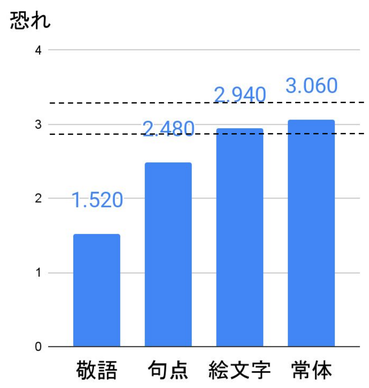
各表現にポイントを課して、各表現にポイントの平均値を出す

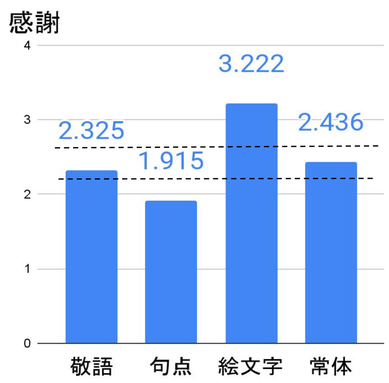
結果　（0.2以内の差は誤差とする）











考察

喜び：絵文字が適切

Pフェイスであるため、Pポライトネスの絵文字が高く、Nポライトネスの敬語が低くなったと考えられる。また句点が低い。

悲しみ：絵文字が適切

Pフェイスであるため、Pポライトネスの絵文字が高く、Nポライトネスの敬語が低くなったと考えられる。また句点が低い。

怒り：常体・絵文字が適切

Nフェイスであるが、敬語、絵文字ともに低い。主な原因はフェイスの位置づけが適切でなかったこと、また、状況設定と選択文章が適切でなかった。

恐れ：絵文字が適切

Pフェイスであるため、Nポライトネスの敬語が低くなったと考えられる。また句点が低い。しかし、状況設定と選択文章が適切でなかった。

感謝：絵文字が適切

Pフェイスであるため、Pポライトネスの絵文字が高くなったと考えられる。また句点が低い。

謝罪：敬語が適切

Nフェイスであるため、Nポライトネスの敬語が高く、Pポライトネス絵文字が低くなったと考えられる。

また句点はNポライトネスに位置していると考えられる。

結論

感情によって伝わりやすい文末表現は異なる。またフェイスによって異なるとも言いかえられ、フェイスを判断しながら文末表現を変えると良いともいえる。

反省

調査方法をもっと精査する必要や場面設定の際、フェイスの位置づけをもっと的確にするべきだった。また敬語の種類や絵文字の種類を増やしてたり、高校生以外の世代にも調査するといいと思った。

参考文献

中井あづみ(2012)怒りと怒りの近似概念の操作的定義の異同および怒りの創作定義に影響を与えた要因
徐 璐(2014)日本語の敬語使用とポライトネス
大塚生子(2013)ポライトネス理論におけるフェイスに関する一考察
宗森 純,大野純佳,吉野 孝(2006)絵文字チャットによるコミュニケーションの提案と評価
廣瀬 信之, 牛島 悠介,森 周司(2014)携帯電話メールによる感情の伝達に顔文字と絵文字が及ぼす影響